安全衛生あれこれ 78

増田労働衛生コンサルタント事務所
所長 増田稔久

全国安全週間を迎えて
職場、家庭で安全を話そう！

全国安全週間を迎えさまざまな活動が展開されていることと存じます。一つ提案があります。週間中に日々の仕事と生活の安全について、職場や家庭で話し合う機会を設けてはいかがでしょう。

テーマの一つとして「これまでに周辺の人で亡くなった事故事例は何があるか」をお勧めします。周辺の人というと、家族、職場、学校、町内等の友人、知人とその家族です。事故といえば、交通事故、労災、地震、火災、水難等です。自身の記憶をたどると、交通事故1人、労災1人、火災1人、水難4人でした。水難事故が一番多いことに驚きました。皆さんはいかがでしょう。悲しい記憶を呼び起こすことは辛いことですが、事故を繰り返さないために語り継ぐことは大切なことです。

その水難事故のひとつを紹介します。数十年も前のこと、当時の職場の上司と2人で過ごした休憩時に伺ったのです。

「以前に大学生だった息子を川で亡くした」「息子はGパンで川に入り、思うように動きが取れず溺れた」「息子を守れずとても悔しい」「川の事故には気をつけなさい」と静かに彼に諭されたのです。あまりの衝撃で簡単なお悔やみしか言えませんでしたが、その忠告は今でも大切にしています。

さて、水の事故を調べてみました（別掲）。警察庁によると、令和6年の全国における水難死亡者数（含む行方不明）は８１６人で同年の労災死亡者数７４６人を上回る人数でした。水難事故の現場は「海、河川、湖沼池、用水路、プール等」ですが、用水路の件数が高く、プールが思っていたより少ない状況でした。

（別掲）　**令和6年における水難事故の概況等（全国）**

1，水難者数と内死亡者数等（死亡者数には行方不明者数を含めている）

水難者数	内 死亡者数	内 負傷者数	内 無事救出
1753	816	304	633

2，場所別の死亡者・行方不明者数

海	河川	湖沼池	用水路	プール	その他
372	288	39	100	3	14

3，都道府県別の水難者数（ワースト3）と愛知（カッコ内は死亡者等の数）

①沖縄	②東京	③岐阜	⑥愛知
145(45)	111(56)	78(37)	60(29)

4，憂慮すべき「中学生」の水難者の急増（カッコ内は死亡者等の数）

令元年	2年	3年	4年	5年	6年
32(1)	36(7)	44(6)	52(9)	53(10)	61(12)

令和7年6月19日「令和6年における水難の概況等」警察庁生活安全局生活安全企画課作成資料から引用

また、警察庁の資料で、２件のデータに注目しました。第一は、中学生の水難事故が数年前より倍増しているのです。死亡者数も令和元年の１人が、その後増加し令和６年には12人と急増しています。憂慮すべき事態と思いませんか。この実態を友人の中学教諭に聞いてみると、個人的な見解との前提で、

①中学生は、小学生と違い親離れが進み、保護者から離れての行動範囲が広がり、勝手に水辺にも近づく

②体育での水泳教育の授業が減って泳げない子もいる

③保護者の影響を受けてか、子供たちが、自然を甘く見てこれくらい大丈夫と、危険予知能力が低下している可能性もある

とのことでした。小学高学年から中学にかけての「水泳能力の確保」と子供たちにも「危険予知のKY活動」が重要です。

第二は、水難事故者数の都道府県ごとの人数は「沖縄、東京、岐阜」がワースト３で、愛知県は６番目でした。愛知県民としてお隣の岐阜県の水辺で楽しむ機会も多いと思います。昨年は上矢作川の「やな」に行ってアユ料理と水遊びを楽しみました。今年は板取川などに行ってみたいと思っています。そんな岐阜県が水難ワースト３とは残念です。岐阜県のホームページを訪ねてみると、何としてでも水難事故を無くそうとの願いが溢れたWEBページを見つけました。それは「水難事故等に関するQ＆A」で、１０７件もの質疑応答が示されています。担当者の熱意に惹かれて一気に読んでしまいました。項目の一部を紹介します。

Q71　川には、人の足をつかんで川底にひっぱるカッパがいますか？

A71　います。……（＝詳しい説明は文末QRコードより岐阜県ホームページをご覧ください）

Q30　水難事故が毎年たくさん起きていることは知っています。でも、「私だけは大丈夫」と思うので、ライフジャケットは着用しないつもりですが？

A30　「私だけは大丈夫」と思うことは、楽観バイアスと呼ばれる、認知バイアスの一種です。楽観バイアスとは、自分の能力を実情よりも楽観的にとらえ、危険や脅威を軽視する心的傾向のことです。人は、自分には悪い事は起きないと考えがちなのです。川は、見た目とは違って、人を川底に引き込む流れが不規則に生じるなど、非常に危険です。川には、常に水難事故リスクがあります。私だけは大丈夫、ということはありえません。ライフジャケット着用は最低限のリスク低減対策です。ライフジャケットを着用したうえで、十分注意することが必要です。

このHPでは、ライフジャケットの着用を推奨し、それが当たり前となる社会を目指しています。費用も掛かるので相当の意識改革が必要ですが、労災死亡者数を上回る水難死亡者数を思うと、水辺に行くなら「ライフジャケットの着用」をしっかりと認識したいです。

岐阜県ホームページ「水難事故等に関するQ&A」